



▲▼ 第2回赤十字東洋会議



▼ 創立当時の少年赤十字の雑誌



▲ 創立50周年記念式典



▲ 京都府丹後地方震災に救護員を派遣



▲ 赤十字参考館 (のちの赤十字博物館) で早老防止展覧会開催

日本赤十字社のあゆみ

1月 千葉支部富浦海浜学校開校。173人の虚弱児童収容

9月 アメリカとキューバの大暴風被災者支援のため、災害救援金を、アメリカ赤十字社、キューバ赤十字社に送金

11月 創立50周年記念式典

11月 第2回赤十字東洋会議

12月 衛生講習会(救急法や家庭看護法の前身)始まる

12月 赤十字参考館(のちの赤十字博物館)開館

3月 京都府丹後地方震災、死者3,589人、全壊3,340戸。アメリカ赤十字社、ソビエト赤十字社から救援金が贈られる

10月 社会看護婦の養成を開始

10月 ハーグで第13回赤十字国際会議が開催される。国際赤十字規約が決議され、同月から施行

7月 赤十字社連盟の主催でジュネーブにて少年赤十字国際会議が開かれ、本社は林博太郎博士を嘱託委員として派遣

11月 北伊豆地方震災、死者254人、全壊2,290戸。静岡、神奈川、東京の各支部が救護を実施

1924 大正13年

1925 大正14年

1926 大正15年～昭和元年

1927 昭和2年

1928 昭和3年

1929 昭和4年

1930 昭和5年

世界と日本の動き



▲ 治安維持法

2月 国家社会主義ドイツ労働者党(ナチ党)が再建

4月 治安維持法が定められる

5月 普通選挙法が公布され、25歳以上の男子に選挙権が認められる

8月 捕虜の待遇に関するジュネーブ条約成立

2月 川端康成が「伊豆の踊り子」を著す

5月 十勝岳が大噴火し、死者144人

7月 中国で蒋介石が国民革命軍を率いて北伐を開始する

9月 ドイツが国際連盟に加入し、常任理事国となる

12月 元号が大正から昭和に改元される



▲ 地下鉄開通

3月 金融恐慌

3月 南京事件

3月 田中義一内閣成立

10月 中国共産党の毛沢東がソビエト政権を樹立する

12月 上野・浅草間に日本最初の地下鉄が開通する

2月 最初の普通選挙権実施

8月 パリ条約、パリ不戦条約(ケロッグ=ブリアン条約)に日本を含む15カ国が署名する

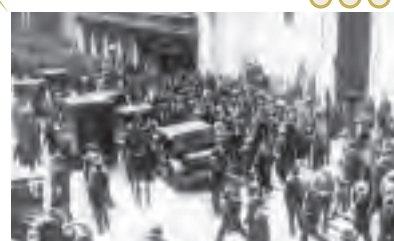
11月 ミッキーマウスが公式に初登場

1月 スターリンが、トロッキーを国外追放。スターリンの独裁体制

2月 ラテラノ条約締結

2月 バチカン市国が独立

10月 世界恐慌



▲ 世界恐慌



▲▼ 満州事変



11月 満州事変のために第1救護班(満州委員本部)第2救護班(本部)を編成し遼陽や鉄嶺に派遣
12月 旅順や広島衛戍病院に救護班を派遣
日本赤十字社のあゆみ

第1回赤十字デーのポスター



▲毎年11月15日を赤十字デーと定めてPRした

1月 満州事変のため救護班20個班を編成し、現地・内地の陸軍病院等へ派遣
10月 日本赤十字社博物館規則を制定し、参考館を博物館と改称

6月 パリで赤十字社連盟看護婦顧問委員会、翌月にはパリとブリュッセルで看護婦国際会議が開かれる
7月 パリで児童保護国際会議が開かれる
11月 「赤十字デー」(11月15日、1950年からは5月8日)を制定

1931 昭和6年

1932 昭和7年

1933 昭和8年

1934 昭和9年

1935 昭和10年

1936 昭和11年

世界と日本の動き

4月 重要産業統制法公布
8月 羽田飛行場(現在の東京国際空港)が開港
9月 満州事変が起こる

1月 上海事変
5月 五・一五事件で、総理大臣犬養毅が殺害される
7月 ドイツ総選挙でナチス党が第一党になる



▲五・一五事件

1月 アドルフ・ヒトラーがドイツの首相に就任
3月 三陸地震(昭和三陸大津波)M8.1、死者3,021人、行方不明43人、負傷968人
3月 日本が国際連盟を脱退
3月 ニューディール政策
10月 ドイツが国際連盟を脱退



▲三陸地震

1月 ドイツ・ポーランド不可侵条約が締結される
3月 函館大火
12月 日本がワシントン海軍軍縮条約の破棄を通告



▲ナチスドイツ

3月 アドルフ・ヒトラーがヴェルサイユ条約を破棄し、ナチス・ドイツの再軍備を宣言
3月 ペルシアが国号をイランに改称



▲二・二六事件

1月 日本がロンドン海軍軍縮会議から脱退
2月 二・二六事件が起こる
11月 東京・永田町に国会議事堂落成
12月 ソビエト連邦でスターリン憲法が制定される



▲第15回赤十字国際会議参加者記念写真(日本赤十字社本社屋前)



▲第15回赤十字国際会議



▲室戸台風の救護活動



▲函館大火の救援活動

3月 函館市大火の救護活動、焼失2万2,600戸。救護患者数3万5,055人
9月 関西・四国・中国大暴風に救護班を派遣する。救護患者数6万6,293人
10月 第15回赤十字国際会議を東京の本社で開催



▲新島における救護活動



▲昭和11年に滋賀県で開かれた第1回水上救助法の講習会



▲台湾震災の救護活動

2月 水上救助法講習会始まる
3月 戦地軍隊における傷者・病者の状態改善に関する1929年の赤十字条約の公布

11月 秋田県尾去沢鉱山の沈殿地の堤防が決壊し、鉄砲水。死者250余人。秋田、岩手、宮城の3支部から救護班が出動。派遣救護員延123人、取扱患者915人
12月 東京府下新島に強震。本社から救護班を派遣。派遣救護員延15人、取扱患者230人
12月 スペイン内乱救援金を国際委員会に送る



▲日本赤十字社本社を出発する救護班



▲前線へ向かう救護班



▲富山大火(上・下)



7月 日華事変から第2次世界大戦終結まで救援活動を行う

7月 本社で東洋少年赤十字会議開催。フィリピン、インド、シヤムなどから代表38人が参加

9月 大牟田市に赤痢患者が続出し、大阪支部ほか8支部から医師10人を派遣する。派遣救護員延350人、取扱患者延4,633人

日本赤十字社のあゆみ

5月 少年赤十字団員の資金3万6,876円87銭で患者輸送機「愛国136」を献納

6月 6月～9月にかけて近畿・関東地方に風水害。東京をはじめ茨城、埼玉、静岡、大阪、兵庫の各支部は救護活動を実施。派遣救護員延410人、取扱患者延6,259人

9月 富山県氷見町で大火。富山県支部は町内の各所に救護所を仮設して救護を実施。派遣救護員延195人、取扱患者5,106人



▲南方地域で捕虜と語らう看護婦



▲看護婦から寄贈された「愛国号」で患者を搬送

11月 岩手県松尾鉱山の坑道の一部がくずれ坑内に246人が生埋めになる。岩手県支部が救護活動を実施。取扱患者1,397人



第2次世界大戦中の
赤十字紙芝居



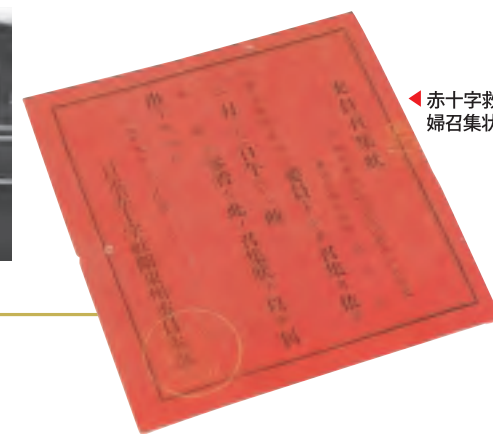
▲兵士におにぎり配給



▲赤十字看護婦の手記、書籍



▲弾痕も生々しい車両



▲赤十字救護看護婦召集状

1月 静岡市大火。焼失5,100戸。静岡支部は救護班4個班を出動させて救護にあたる

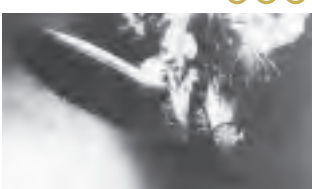
5月 北海道北見国枝幸街で山火事。北海道支部は救護班を派遣し患者714人を救護

1937 昭和12年

世界と日本の動き

5月 ヒンデンブルグ号爆発事故

7月 盧溝橋事件。これが発端となり日本と中華民国間に、日中戦争が起こる



▲ヒンデンブルグ号

1938 昭和13年

2月 山川均、大内兵衛、美濃部亮吉ら労農派教授グループ約30人が検挙(第2次人民戦線事件)

3月 ナチス・ドイツ、オーストリアを併合(アンシュルス)。国際労働機関(ILO)から脱退

4月 国家総動員法が制定される



▲前線へ向かう日本戦車隊

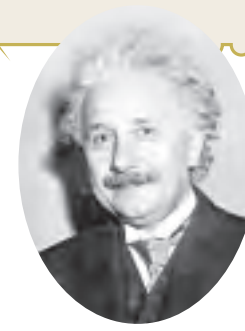
1939 昭和14年

1月 チリでマグニチュード8.3の地震、死者約3万人

5月 ノモンハン事件

8月 アインシュタインがルーズベルト米大統領宛に原子爆弾開発を促す書簡を送付、マンハッタン計画の契機となる

9月 ナチス・ドイツ軍ポーランド侵攻、第2次世界大戦が始まる(～45)



▲アインシュタイン



▲大政翼賛会

1940 昭和15年

7月 ナチス・ドイツによるイギリス本土空襲

9月 日独伊三国同盟

10月 大政翼賛会



▲三国同盟



▲西南大平洋で撃沈された病院船「ぶえのすあいれす丸」から救助された看護婦（昭和18年）



▲赤十字デーポスター



▲原爆が投下された後焼け野原で、救護活動の中核を担った広島赤十字病院



▲沼波真上から被爆し、多くの犠牲を出した日本赤十字社広島支部（広島平和記念館提供）



▲治療を受ける広島の被爆者



▲治療を受ける長崎の被爆者



▲赤十字国際委員会駐日首席代表マルセル・ジュノーは原子爆弾が投下された直後の広島に医薬品を持って入り、多くの被災者を救護した



▲戦後の日本赤十字社再建のため、GHQ、厚生省と災害救護体制作りについて協議する島津社長（左）

1月 日本赤十字社捕虜救恤委員部規則を制定し、本社外事部内に虜救恤委員部を設ける

1月 赤十字国際委員会駐日代表部設置

7月 日本赤十字社戦時救護規則を実施する。また患者の輸送に救護航空機を加える

8月 山口県下で暴風雨による大被害発生。自動車による移動救護を実施し、1,186人の患者を救護する

1月 本社に救護本部を設置

5月 赤十字国際委員会駐日代表は捕虜収容所を視察する。台湾をかわきりに長野・函館・釜石・奉天・朝鮮・善通寺

10月 通信連絡が絶えている外国に住む肉親との通信を再開させるため、本社は通信当局と交渉して赤十字通信の連絡事務を開始する

1月 アルゼンチンに大地震被災者のため援助金を贈る

1月 第2次世界大戦救護活動。平時の事業はほとんど中止もしくは廃止、機関紙「博愛」も休刊

8月 広島市に原子爆弾投下。奇跡的に焼け残った広島赤十字病院に被害者が殺到し、山口支部から救護班3個班を派遣。若草町東練兵場に開設した臨時救護所や広島市庁舎でも被災者の救護を行う。従事した救護員延818人、取扱った患者延3万2,029人

9月 在外邦人の引き揚げ救護開始

1月 GHQの顧問団の始動により戦後の日本赤十字社再建整備開始

6月 赤十字女子専門学校を創立し、看護婦教育の刷新と強化をはかる

12月 南海地方の震災に対して本社は中央救護本部を設置し、各支部との協力の下に臨時救護所または巡回診療等で被災者救護にあたる。救護班30、防疫班4、救護員329人を派遣、患者3万4,858人。義援金募集により総額636万9,843円88銭が集まる

5月 青森県上北郡三本木町の火災で住家800戸を焼失。救護班を派遣し、患者550人を救護

7月 茨城県下で暴風雨により河川・湖沼が増水氾濫。救護班を派遣し、1,907人の患者を救護

日本赤十字社のあゆみ

1941 昭和16年

1942 昭和17年

1943 昭和18年

1944 昭和19年

1945 昭和20年

1946 昭和21年

世界と日本の動き

4月 日ソ中立条約成立

7月 長野地震

12月 大平洋戦争が起こる

12月 関門海底トンネル開通



▲大平洋戦争

7月 関門鉄道トンネル開業。貨物列車に限り運転



▲日ソ中立条約成立

7月 東京都制施行。東京府と東京市が統合され東京都誕生

6月 マリアナ沖海戦

7月 赤十字国際委員会が2回目のノーベル平和賞受賞

12月 ハンガリーの独立戦線臨時政府がドイツに対して宣戦布告

6月 サンフランシスコ会議で国際連合憲章が調印される

7月 ポツダム宣言発表。連合国は日本に降伏を要求する

8月 アメリカが、広島、長崎に原爆投下、終戦。国際連合成立

9月 米戦艦ミズーリで降伏文書に調印

12月 NHKラジオで「紅白音楽試合」（後の「NHK紅白歌合戦」）放送



▲広島原爆



▲降伏状調印

1月 極東軍事裁判が開かれる

5月 労働組合が結成されメーデーが復活する

6月 天皇が年頭詔書で人間宣言をする

11月 日本国憲法が公布される

12月 南海地震が和歌山県潮岬沖で発生。死者1,443人

12月 6・3・3・4制の教育が始まる



▲極東軍事裁判



▲上野駅に設置された赤十字ハウス



◀第1回赤十字奉仕団全国大会(昭和31年)



▲アメリカ赤十字社顧問団のダフィー女史(右から4人目)と島津社長を囲む日本赤十字社職員



▲福井地震



福井地震の被災者を訪問する救護班



▲街頭募金に立たれる秩父宮・高松宮両妃殿下



◀白い羽根レコード

▲白い羽根



▲第17回赤十字国際会議(ストックホルム)



▼アメリカ赤十字社から贈られた青少年赤十字ギフトボックス

1月 皇后陛下を本社名誉総裁に奉戴する

1月 日本赤十字社定款の改定

9月 関東・東北風水害(キャサリン台風)に対して、本社は東京、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、宮城の被災地支部と33支部から救護班を派遣。派遣救護員延4,185人、取扱患者延5万333人

10月 社費年額を「30円以上」に改定

10月 災害救助法により日本赤十字社が災害救助を担う

日本赤十字社のあゆみ

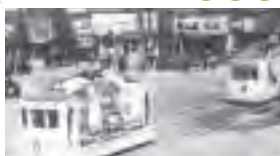
1947 昭和22年

世界と日本の動き

8月 最高裁判所発足

8月 インド、パキスタンを分離し、独立

8月 日本国憲法が施行され



▲日本国憲法施行を祝い装飾した電車

1月 赤十字標章及び名称等の使用の制限に関する法律施行

4月 青少年赤十字の再出発

5月 赤十字奉仕団の発足

6月 北陸地方を襲った地震により、焼失・倒壊家屋約4万戸、死傷者約1万人、被災者25万人。本社と15支部から76班延4,531人を派遣。国立山中病院に5支部から10班延2,372人を派遣

8月 スtockホルムで第17回赤十字国際会議開催。本社からオブザーバーとして島津社長ら3人が出席

10月 共同募金と合同で初めての募金運動を実施

1948 昭和23年

4月 世界保健機関(WHO)設立

8月 大韓民国建国。初代大統領に李承晩就任

12月 世界人権宣言



▲ペニシリンが配給統制品から庶民の薬へ



▲三鷹事件

8月 ジュネーブ四条約の成立

10月 湯川秀樹、ノーベル物理学賞を受賞。日本人初の受賞者



▲湯川秀樹

1949 昭和24年

1月 本社に救護本部を設置

7月 本社の機関紙として「赤十字家庭新聞」を発行

8月 長野県下を襲った豪雨により死傷者308人、行方不明8人、倒壊流失家屋2,339戸。長野県支部から救護班30、救護員158人を派遣。1,720人の患者を救護

12月 寄付金付お年玉はがき売出し

◀お年玉年賀はがきの寄付金により建設された広島原爆病院(昭和31年開設)

5月 白い羽根募金を開始(毎年1回、1958年まで)

10月 モンテカルロにて第21回赤十字社連盟理事会開催。従来の「赤十字社連盟規約」を大改正し、「赤十字社連盟憲章」を議決

10月 身体障害者援護のため、巡回義肢修理班221班を派遣し8,075人取扱い。開眼検診班130班を派遣し9,289人取扱い

1950 昭和25年

3月 世界気象機関(WMO)が発足

6月 朝鮮戦争が起こる(〜53)

7月 金閣寺、放火により焼失



▲金閣寺焼失



▲国鉄桜木町電車火災事故の救護活動



▲東京血液銀行の開設



▲日本赤十字社創立75周年記念式典

▼日本赤十字社法の公布書



4月 国鉄京浜東北線下り電車が桜木町駅付近で最前列車両全焼、二輛目半焼。死者106人、重傷16人。駅構内赤十字ハウスからの連絡で神奈川県支部・東京都支部・赤十字病院から救護員派遣

7月 機関紙「博愛」7月号で廃刊。60年の歴史に終止符

日本赤十字社のあゆみ

4月 日本赤十字社東京血液銀行開設

5月 本社講堂で第60回通常総会並びに創立75周年記念式典を開催

8月 日本赤十字社法制定の臨時総会を開き、公布・施行される

8月 インド干ばつで救援金を連盟経由で送る

10月 日本赤十字社定款を改正する（特殊法人として認可）

1951 昭和26年

世界と日本の動き

4月 国鉄桜木町電車火災事故（桜木町事故）

9月 サンフランシスコ講和条約を結ぶ

9月 日本初の民間放送ラジオ局、中部日本放送と新日本放送（現毎日放送）が開局

9月 日米安全保障条約締結



▲サンフランシスコ講和条約

1月 国会中継の放送がスタート

4月 もく星号墜落事故。搭乗員37人全員死亡

7月 欧州石炭鉄鋼共同体が発足

1952 昭和27年



▲もく星号墜落事故



▲舞鶴港に帰還した引き揚げ船「白山丸」



▲ロシアからの邦人引き揚げの協定書に署名する島津社長

3月 中国残留邦人引き揚げを開始する。2万6,127人帰国

6月 西日本豪雨と7月の近畿大雨で、1府10県に大被害。派遣救護班871班、取扱患者10万2,670人、内外の義援金4億8,485万7,049円32銭、義援品5万1,466梱

10月 1949年8月12日のジュネーブ諸条約に日本政府加盟公布する

12月 ソ連残留邦人引き揚げを開始する。811人帰国



▲中国引き揚げ会議



▲故国の土を踏んでよろこぶ引き揚げ者



▲引き揚げ者の受け入れ活動にあたる日本赤十字社の職員

1953 昭和28年

2月 NHKが日本で初のテレビジョン本放送を開始

4月 日本政府、ジュネーブ四条約に加入

6月 エジプト共和国宣言発表

12月 奄美諸島が日本に返還



▲テレビ放送が始まる



▲奄美諸島が日本に返還される



▲中国紅十字会李徳全会長一行来日



▲日本赤十字社創立80周年記念大会

5月 ノルウェーのオスロで第23回連盟理事会開催。島津社長ら4人が出席して原水爆実験禁止の提案を行う

10月 中国紅十字会の李徳全会長一行が来日
日本赤十字社のあゆみ

2月 日本赤十字社輸血研究所が落成

8月 インド・パキスタン水害に対して、医薬品を送る

4月 社員制度の改正（法人社員の制定・有功章等）

6月 天津で中国紅十字会と在中国日本人戦犯の見舞、在中国日本婦人の里帰り、日中居留民相互の自由往来などに関する協定を結ぶ

11月 皇后陛下をお迎えして第1回赤十字奉仕団全国大会を日本青年館で開催

7月 中央、大阪、広島、広島原爆、水戸、大津、松江、山口の8赤十字病院が政府から原爆症診療機関に指定される

11月 天皇、皇后両陛下をお迎えして日本赤十字社創立80周年記念式典を日比谷公会堂で開催

伊勢湾台風の被災地救護所▶

▼伊勢湾台風被害



▲北朝鮮帰還希望者の意志確認を行なう赤十字国際委員会と日本赤十字社の職員（新潟赤十字センター）



▲新潟港から北朝鮮へ帰還する人々



▲戦後初の海外医療班派遣（コンゴ動乱）

8月 北朝鮮帰還事業に関する「帰還協定」の調印が、カルカッタで葛西副社長と北朝鮮の赤十字会李副会長の間で行われる

9月 伊勢湾台風の救護活動を実施

11月 在日朝鮮人の北朝鮮帰還が始まる（～'67）

12月 北朝鮮帰還第1船が新潟港から帰還者975人を乗せ出港

5月 全国で赤十字愛の献血運動が開始される

8月 戦後初の海外派遣医療班が、動乱のコンゴへ出発

1954 昭和29年

1955 昭和30年

1956 昭和31年

1957 昭和32年

1958 昭和33年

1959 昭和34年

1960 昭和35年

世界と日本の動き

6月 モスクワ近郊のオブニスクで世界初の原子力発電所が運転を開始



▲森永ヒ素ミルク中毒事件



▲原水爆禁止世界大会開催

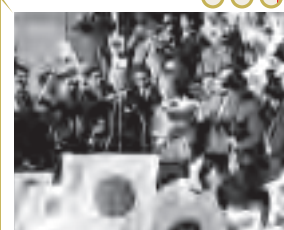
5月 ワルシャワ条約機構が結成、冷戦激化

8月 第1回原水爆禁止世界大会が開かれる

8月 森永ヒ素ミルク中毒事件

10月 日ソ共同宣言

12月 日本が国際連合に加盟



▲日ソ共同宣言

1月 日本の南極越冬隊が南極大陸初上陸

10月 ソ連が人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功



▲南極越冬隊上陸

8月 日清食品がチキンラーメンを発売。世界初のインスタントラーメン

10月 NACAがNASAに名称変更

12月 東京タワー完工式



▲東京タワー

7月 ミス・ユニバースに日本人として初めて児島明子を選ばれる

9月 伊勢湾台風、明治以降最大の台風被害をもたらす

12月 北朝鮮への帰還事業が始まる



▲ミス・ユニバース

1月 新安保条約（日米相互協力及び安全保障条約）が調印される

5月 チリ地震。翌日、日本でも津波の被害

6月 スリランカで世界初の女性首相が誕生

6月 日米安全保障条約の改定

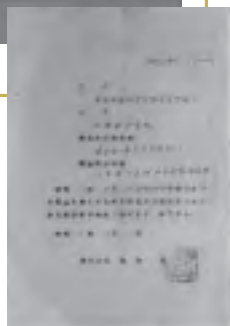
9月 日本でカラーテレビ本放送がスタートする



▲東南アジアに派遣された巡回診療班



▲移動採血車第1号と許可証



- 6月 東南アジア巡回診療団の第1陣がインドネシアへ出発
- 8月 移動採血車第1号を配備。全国に順次赤十字血液銀行を開設
- 9月 室戸台風が四国、阪神、北陸地方を襲う。関係支部による救護活動を実施
- 日本赤十字社のあゆみ

6月 本社に特別救護隊を設置

1961 昭和36年

世界と日本の動き

- 4月 人類初の有人衛星、ソ連宇宙船ボストーク1号が、ガガーリン飛行士を乗せ地球一周に成功
- 10月 南極観測が始まる



▲ガガーリン

- 6月 北陸本線北陸トンネルが開通(1万3,870メートル)
- 7月 堀江謙一が小型ヨットで太平洋単独横断、サンフランシスコに到着



▲北陸本線北陸トンネルが開通

1962 昭和37年



▲赤十字創立100周年記念式典(ジュネーブ)

▼赤十字創立100周年ポスター



▲国鉄鶴見事故の救護活動

- 6月 韓国を襲った台風の災害に対して、救援物資を大韓赤十字社へ送付
- 9月 赤十字創立100周年記念国際会議がジュネーブで開かれ、島津社長ら14人が出席
- 11月 日本飛行連盟の奉仕団活動として、赤十字飛行隊が結成される。神奈川県藤沢飛行場で結成式挙行
- 11月 国鉄鶴見事故で救護活動を実施
- 11月 東南アジア巡回診療活動をビルマで実施

1963 昭和38年

- 7月 老人福祉法公布
- 11月 アイスランド近海で海底火山が噴火、新島が出現。後にスルツェイ島と命名
- 11月 アメリカのケネディ大統領がダラスで暗殺される
- 12月 赤十字国際委員会・赤十字社連盟がノーベル平和賞受賞



▲ケネディ暗殺



▲新潟地震で救護物資を積込む職員



▲新潟地震

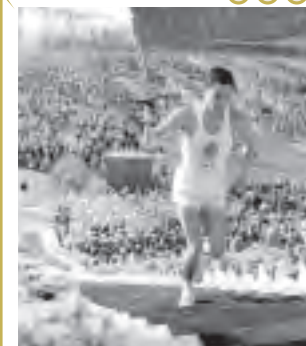


▲新潟地震のため派遣された救護班

- 6月 新潟地方を襲った大震災により山形・秋田にも被害。関係支部などから救護班116個班を派遣し、取扱患者は延べ8,737人
- 8月 血液銀行を血液センターと改称
- 11月 北海道が冷害に見舞われ大凶作。義援金2億757万8,473円、義援品2万339梱包、米20万9,455キロを援助
- 12月 移動採血車27台を各地に配置

1964 昭和39年

- 6月 新潟地震。死者26人
- 8月 献血の推進について閣議決定
- 10月 東海道新幹線が開通
- 10月 第18回東京オリンピック開催



▲東京オリンピック開会式

- 9月 第1回献血運動推進全国大会開催
- 9月 福井豪雨によって死者18人、行方不明1人、全半壊家屋156。福井県支部では救護班をヘリコプターで派遣、319人の患者を取扱う
- 10月 第20回赤十字国際会議(ウィーン)で「赤十字基本原則宣言」を採択

1965 昭和40年

- 2月 アメリカの、北ベトナム爆撃開始
- 6月 山野炭坑ガス爆発。237人が死亡、279人が重軽傷
- 6月 大韓民国と国交回復
- 6月 ベトナム戦争激化
- 12月 朝永振一郎がノーベル物理学賞を受賞



▲三沢大火



▲三沢大火の救護活動

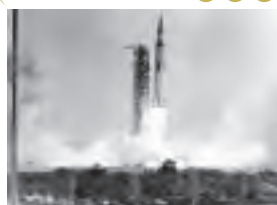
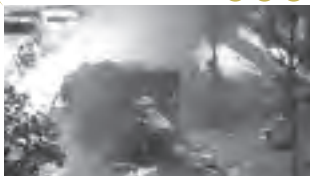
- 1月 三沢市火災。745世帯、2,353人の被災者。青森県支部では救護班派遣、救護物資を配付
- 4月 日本赤十字武蔵野女子短期大学開校
- 7月 栃木県黒磯町用水トンネルで作業中の60人がガスのため集団中毒。死亡25人、重症10人、軽症11人。栃木県支部が救護班を派遣

1966 昭和41年

- 2月 全日空機が東京湾に墜落
- 5月 中国文化大革命
- 6月 ビートルズ来日(日本武道館で公演)
- 11月 全日空機が松山沖に墜落



▲ビートルズ来日

 ▲日本赤十字社創立90周年記念大会		 ▲ビアフラ難民を診る医師 ▼ビアフラ難民に救援物資を配付する職員		 ▲ジュネーブの赤十字国際委員会を訪問する天皇、皇后両陛下		 ▲北陸トンネル列車事故の救護活動	
4月 南海電車衝突事故で救護班3個班を派遣して36人の重傷患者を救護 5月 日本赤十字社創立90周年記念大会を日比谷公会堂で開催。天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下御臨席 7月 北九州、中国、近畿地方に記録的な集中豪雨。6府県で死者行方不明370人・倒壊家屋1,844戸。被災地支部から21個班の救護班を派遣し、延829人の患者を取扱う 日本赤十字社のあゆみ		5月 北海道十勝沖を震源地とする地震によって、北海道、東北地方に大被害。死者行方不明51人、全半壊2,184戸。被災地支部から救護班延べ11個班を派遣し116人の患者を取扱う 8月 岐阜県下で局地的集中豪雨。全壊・流失58戸、半壊74戸。救護班5個班を派遣し415人の患者を取扱う 4月 赤十字社連盟創立50周年式典に島津名誉社長が参加		3月 ナイジェリア・ビアフラ紛争難民救援のため医療班をナイジェリアへ派遣 4月 大阪ガス爆発の救護活動を実施 7月 東南アジア・太平洋地域青少年赤十字国際セミナー「こんにちわ'70」開催 8月 四国・中国地方に台風10号が直撃。死者32人、負傷者835人、家屋全半壊4,013戸、浸水家屋2万8,729戸。高知県支部は救護班1個班を派遣して巡回救護を行う。また各被災地支部は救護物資を配付		2月 バングラデシュに医療班派遣 4月 第2回アンリー・デュナン記章が、日本人として初めて、橋本祐子本社青少年課長に授与される 5月 沖縄赤十字社が日本赤十字社沖縄県支部となる 11月 日本赤十字社医療センター発足 11月 北陸トンネル列車事故の救護活動	
1967 昭和42年 世界と日本の動き 6月 第3次中東戦争 6月 欧州共同体（EC）発足 6月 東南アジア諸国連合（ASEAN）結成		1968 昭和43年 6月 小笠原諸島の日本復帰 8月 ワルシャワ条約機構軍がチェコスロバキアに軍事介入。（チェコ事件） 10月 川端康成がノーベル文学賞受賞 12月 東京都府中市で3億円強盗事件発生		1969 昭和44年 10月 日本初の原子力船「むつ」が進水式 12月 アポロ11号が人類初の月面有人着陸を果たす  ▲アポロ11号		1970 昭和45年 3月 日本万国博覧会（大阪万博）開幕 3月 日本航空機よど号ハイジャック事件発生 8月 東京都内ではじめての歩行者天国が銀座、新宿、池袋、浅草で実施 10月 三島由紀夫自決  ▲三島由紀夫	
1971 昭和46年 4月 エトナ火山噴火 6月 沖縄返還協定の調印式 8月 ニクソンショック  ▲大阪万国博覧会		1972 昭和47年 2月 連合赤軍、あさま山荘事件 5月 沖縄、アメリカから日本へ返還、沖縄県発足 9月 日中国交正常化の共同声明		1973 昭和48年 1月 ベトナム和平協定 2月 円変動相場制へ 10月 オイルショック  ▲オイルショック		1974 昭和49年 8月 三菱重工本社で時限爆弾爆発（三菱重工爆破事件） 10月 佐藤栄作元首相がノーベル平和賞を受賞することが決定  ▲三菱重工爆破事件	



▲松生丸だ捕事件で北朝鮮赤十字会に連絡する東社長



▲日本赤十字社創立百周年記念全国大会



▲ベトナム難民援護施設での交流



▲貨物船に救助され、日本に到着したベトナムボートピープル



▲日本赤十字社本社新社屋完成

1月 パキスタン地震救援に救援代表を派遣、救援物資を送付。

1月 バングラデシュ水害に救援代表を派遣、救援物資を送付

5月 南ベトナム難民救援のため救援物資を送付

8月 台風5号・6号は高知、愛媛、青森、秋田に上陸。死者101人、行方不明15人、全壊流失851戸。救護活動を実施

2月 グアテマラ地震に救援代表を派遣、救援物資を送付

3月 赤十字高等看護学校を赤十字看護専門学校と改称

9月 台風17号災害の救護活動を実施

9月 日本赤十字社百年展が発祥の地熊本から始まる

4月 日本赤十字社本社新社屋完成。(黒川紀章設計)

5月 日本赤十字社創立百周年記念全国大会をNHKホールで開催

8月 ベトナム難民(ボートピープル)の一時収容援護活動が始まる

5月 再建30周年記念青少年赤十字全国大会

10月 イラン地震で救援を実施



▲カンボジア難民救援のため医療班派遣

6月 マレーシア ビドン島ヘレントゲン技師、看護婦の派遣始まる

8月 富士山落石事故の救護活動を実施

8月 静岡市地下街ガス爆発事故の救護活動を実施

8月 北海道の大雨災害の救護活動を実施

8月 熊本の豪雨災害の救護活動を実施



▲小貝川氾濫で活躍する赤十字飛行隊



▲カンボジア国内避難に救援物資を配付する職員

6月 33都道府県の集中豪雨災害で救護活動を実施

8月 北海道中央部の大雨災害の救護活動を実施

8月 台風15号災害(関東地方)の救護活動を実施

10月 台風24号災害(18都道府県)の救護活動を実施

日本赤十字社のあゆみ

1975 昭和50年

1976 昭和51年

1977 昭和52年

1978 昭和53年

1979 昭和54年

1980 昭和55年

1981 昭和56年

世界と日本の動き

4月 サイゴン陥落によりベトナム戦争終結

4月 インドシナ難民の大量流出始まる

7月 沖縄国際海洋博覧会開幕



▲沖縄国際海洋博覧会開幕

2月 アメリカ、ロッキード事件

7月 中国唐山地震。20万人以上が犠牲(史上最大の地震被害)



▲ロッキード事件

2月 200海里経済水域規定に基づく初の日米漁業協定調印

7月 ニューヨークで落雷が原因で大停電

7月 日本初の静止気象衛星「ひまわり」打ち上げ

9月 国民栄誉賞が創設され、王貞治が受賞

9月 ジュネーブ条約追加議定書の成立

9月 ダッカ空港において日本赤軍によるハイジャック事件



▲ダッカ事件

3月 日本一の高層ビル(当時)サンシャイン60完成

6月 宮城県沖地震

8月 日中平和友好条約調印

1月 アメリカ合衆国と中華人民共和国が国交を回復

2月 イラン革命

3月 アメリカのスリーマイル島原子力発電所で放射能漏れ事故



▲東京サミット

8月 静岡駅前の地下街でガス爆発。死傷者200人以上

8月 新宿西口バス放火事件

9月 イラン・イラク戦争(〜88)



▲静岡駅前地下街ガス爆発

3月 中国残留孤児が初来日

4月 日本原電敦賀発電所で放射能漏れ事故



▲中国残留孤児

▼インドネシア・ガレンゲン火山噴火被災者への給食



▲三宅島噴火災害で救護物資送付



▲北海道千歳市に完成した血漿分画センター

▼NHK海外たすけあいが始まったネパールの飲料水供給・保健衛生事業



▲NHK海外たすけあい資金で建設されたバングラデシュのサイクロンシェルター



▲ポーランド経済危機のため救護物資を配付する職員

2月 ホテルニュージャパン火災事故の救護活動を実施

2月 羽田沖日航機墜落事故の救護活動を実施

2月 ポーランド経済危機で救援活動を実施

7月 九州地方集中豪雨災害の救護活動を実施

7月 インドネシア火山噴火救援のため救援代表を派遣

8月 台風10号と8月3日豪雨災害(近畿地方)の救護活動を実施

日本赤十字社のあゆみ

2月 NHKテレビ放送開始30周年、国際赤十字創設120周年を記念し、「NHK海外たすけあい」キャンペーン始まる

4月 カンボジア難民救援医療班派遣

5月 日本海中部地震の救護活動を実施

5月 ネパールの飲料水供給・保健衛生事業開始

7月 7月豪雨災害(島根県など)の救護活動を実施

7月 山陰地方豪雨の救護活動を実施

8月 血漿分画センター完成

10月 三宅島噴火災害の救護活動を実施

10月 赤十字奉仕団並びに青少年赤十字再建35周年記念全国大会



▲沖縄の献血会場を視察される皇太子、同妃両殿下(当時)と林社長(左から4人目)



▲御巣鷹山の日航機墜落現場



◀日航機事故救護体験記



◀スーダン干ばつ救援に派遣された看護婦



▲ベトナム・ドクちゃん来日



▲ダイアナ妃乳児院訪問



▲日本赤十字看護大学開学式



◀群馬県藤岡市民体育館で活動にあたる救護班

▼コロンビア・ネバドデルレイス火山噴火で負傷者を手当する医師



▲エチオピア干ばつ救援のため派遣された看護婦



▲エチオピア干ばつ救援



▲メキシコ地震で負傷者を手当する医師

2月 アフリカ干ばつの救援活動を実施

8月 エチオピアへ看護婦を派遣

9月 長野県西部地震の救護活動を実施

7月 急行「能登路5号」脱線転覆事故の救護活動を実施

7月 長野市地附山地滑り災害の救護活動を実施

7月 スーダンへ救援物資を送付

8月 御巣鷹山日航機墜落事故の救護活動を実施

9月 メキシコ地震で医療班派遣

11月 コロンビア火山噴火で医療班派遣

4月 チェルノブイリ原発事故の救援活動を実施

4月 日本赤十字看護大学開校

4月 新基準の献血制度発足、新たに「400ml」、「成分献血」を導入

5月 イギリスのダイアナ妃が日本赤十字社医療センター付属乳児院ご視察

6月 ベトナム二重児ベトナムちゃん、ドクちゃん日本赤十字社医療センターで集中治療

11月 伊豆大島三原山噴火災害の救護活動を実施

1982 昭和57年

世界と日本の動き

2月 日航機羽田沖墜落

4月 フォークランド戦争

9月 国鉄のリニアモーターカーが世界初の有人浮上走行実験に成功



◀日航機羽田沖墜落

1983 昭和58年

4月 東京ディズニーランド開園

5月 日本海中部地震。M7.7

9月 大韓航空機撃墜事件

10月 三宅島大噴火



▲ディズニーランド開園の様子

1984 昭和59年

1月 アフリカ干ばつ飢饉拡大

12月 グリコ・森永脅迫事件(2000年に未解決のまま時効に)



▲グリコ・森永脅迫事件(店頭から撤去されたグリコ製品)

1985 昭和60年

3月 科学万博つくば'85開催(～9月16日)

3月 日本初のエイズ患者を認定

8月 日本航空123便が高天原山(群馬県上野村)、御巣鷹の尾根に墜落、520人の死者を出すも乗客4人が奇跡的に生存



◀日本初のエイズ患者を認定

1986 昭和61年

4月 ソ連ウクライナのチェルノブイリ原子力発電所で大規模な爆発事故発生

11月 伊豆大島の三原山が噴火



◀チェルノブイリ原発事故



◀▲中国東北部森林火災の救援。被災者を見舞う職員



▲上海列車事故の負傷者の搬送

- 3月 献血由来血漿分画製剤の民間製造依頼を開始
- 4月 新たに蘇生法講習会を開始
- 5月 中国東北部の森林火災の救援活動を実施
- 6月 献血者数が1億人突破
- 8月 赤十字映画祭で日本から出品した作品が金賞

日本赤十字社のあゆみ

1987 昭和62年

世界と日本の動き

- 10月 利根川進マサチューセッツ工科大学教授がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 10月 ブラックマンデー

- 1月 エチオピア飢饉の救援活動を実施
- 4月 上海列車事故で医療援助を実施
- 9月 台湾住民元日本兵戦没者遺族等に対する特定弔慰金等支給業務開始
- 10月 青少年赤十字再建40周年記念全国大会
- 12月 アルメニア地震の救援活動を開始

1988 昭和63年

- 3月 青函トンネル開通 青函連絡船の運航終了
- 3月 東京ドームが完成
- 12月 パンナム機爆破事件



▲青函トンネル開通



▲アルメニア地震救援で派遣された看護婦



▲ルーマニア内戦で派遣され医薬品を配付する医師



▲日本赤十字社中央血液センターで献血をされる高円宮殿下

- 4月 パキスタンのアフガニスタン難民救援で医療要員派遣
- 6月 東京ディズニーランドで世界最大規模の献血実施
- 7月 昭和天皇記念献血推進賞・同学術賞を設立
- 7月 伊豆半島東方沖海底火山噴火の救護活動を実施
- 11月 日本赤十字社昭和天皇記念血液事業基金設立
- 11月 アルジェリア地震の救援活動を実施
- 12月 ルーマニア内戦で医療班派遣

- 3月 血漿分画製剤の製造・供給で日本赤十字社、厚生省、日本血液製剤協会が合意
- 6月 イラン地震の救援活動を実施
- 7月 フィリピン・バギオ地震の救援活動を実施

1989 昭和64年～平成元年

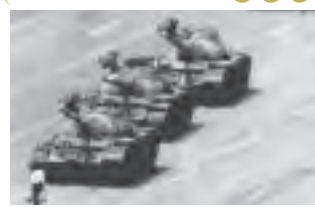
- 1月 元号が昭和から平成に改元される
- 6月 天安門事件
- 9月 横浜ベイブリッジ開通
- 11月 東ドイツがベルリンの壁の通行を自由化。ベルリンの壁崩壊



◀ベルリンの壁崩壊

1990 平成2年

- 8月 イラクがクウェート侵攻
- 10月 東西ドイツの統一



▲天安門事件



▲雲仙普賢岳災害の避難所で被災者にマッサージの奉仕をする赤十字ボランティア



▲イラクのクルド難民救援で診療する医師

- 1月 湾岸戦争で中東へ医療班派遣
- 4月 ソ連チェルノブイリ原発爆発事故の被爆児を広島赤十字・原爆病院で診療
- 4月 血漿分画センターに血液凝固因子製剤製造施設竣工
- 4月 雲仙普賢岳噴火災害の救護活動を実施
- 4月 イラククルド難民の救援活動を実施
- 5月 滋賀県信楽高原鉄道事故の救護活動を実施
- 6月 看護婦養成100周年記念行事
- 11月 青少年赤十字全国大会「こんにちは'91」開催

1991 平成3年

- 1月 湾岸戦争、多国籍軍がイラク空爆開始
- 7月 ワルシャワ条約機構解体
- 9月 クロアチア、ユーゴ軍と衝突(クロアチア紛争(～'95))
- 12月 ソビエト連邦崩壊
ゴルバチョフ大統領辞任



▲ソ連邦崩壊



▲カンボジアPKO協力法成立



▲北海道南西沖地震で被災者に救護物資を配付



▲北海道南西沖地震

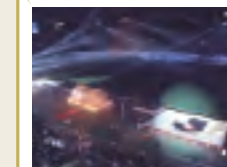


▲対ロシア人道支援で医薬品を病院に届ける職員

- 2月 防災ボランティア育成リーダー養成研修会開催
- 3月 対ロシア人道支援を実施(～1995年)
- 9月 千葉県JR成田線衝突事故の救護活動を実施
- 11月 日本赤十字社法制定40周年記念で名誉総裁皇后陛下が本社をご訪問

1992 平成4年

- 4月 ボスニア・ヘルツェゴビナ内戦始まる
- 6月 カンボジアPKO協力法成立
- 8月 韓国、中華人民共和国と国交樹立
- 9月 毛利衛スペースシャトル計画で日本人として初めて宇宙飛行士に



▲Jリーグ開幕

1993 平成5年

- 2月 M6.6の能登沖地震発生。石川県で最大震度5
- 5月 Jリーグ開幕